

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	4570200917
法人名	医療法人誠心会マドコロ外科医院
事業所名	グループホーム 小松原
所在地	都城市小松原町1161番地3 (電話) 0986-26-0530
評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎市和知川原1丁目101
訪問調査日	平成20年6月25日

【情報提供票より】(20年 5月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 12 月 20 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤	7 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 7.3 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	0 円
敷金	有(20,000 円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) <input checked="" type="checkbox"/> 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	200 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(6月 6日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	3 名	要介護2	1 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5		要支援2			
年齢	平均 87.4 歳	最低	74 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	マドコロ外科医院 柴田歯科医院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

都城市中心地のオフィス街にあり、幹線道路より少し入り込んだ比較的静かで利便性の良好な場所にホームは立地している。利用者の立場に立った暖かい心こもったケアを目指す管理者の熱い思いが全職員に浸透し、明るく思いやりのある職員に支えられて、利用者も家族も安心して元気で生きいきとして暮らしている。又、ホームはオフィス街にあるため地域住民が少なく、地域との交流に厳しい面があるが、近くの神社の祭りに参加したり、保育園の園児が立ち寄る等地元の人々との交流を前向きに取り組んでいる。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	主な改善課題については職員会議で話し合い、災害対策について地元消防団の協力の取りつけや金銭管理の確認等着実に改善を行っている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者、計画作成担当者を中心に職員全員で取り組み、サービスの質の向上に活かしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2か月に1回開催し、幅広い立場の人が参加して、外部評価の結果についての報告や災害時の対応について活発な話し合いを行いサービスの質の向上に取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	運営推進会議に家族の代表が出席し、質問や意見、不満等を気軽にいえる雰囲気づくりに努めている。又、玄関に意見箱を設置しているがほとんど意見がない。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	市の中心地のオフィス街にあるので地域住民が少なく、交流は厳しい面があるが、近くの神社の祭りに参加したり、保育園の園児が立ち寄る等、出来る範囲で地元の人々との交流に努めている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全員で話しあい、これまでの理念を見直し、地域住民との交流を加味した独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念について職員間で話し合いの場を持ち、具体的なケアに活かされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	オフィス街にあるので地域住民が少なく、交流は厳しい面もあるが、近くの神社の祭りに参加したり、保育園の園児が立ち寄る等、出来る範囲で地元の人々との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員で取り組み、サービスの質の向上に努めている。又、外部評価の結果について職員会議で全員に報告され、改善点についての話し合いを行っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回開催し、利用者、家族、市職員、公民館長、社協職員等幅広い立場の人が参加し、報告や話し合いを行っている。又、非常災害時の対応について、公民館長より前向きな協力の話がある等、サービス向上に活かされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に市の担当者が毎回出席し馴染みの関係が築かれており、運営上の課題や日常の業務についても気軽に相談できる環境になっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時に暮らしぶりや健康状態、金銭管理等についてきめ細かに伝えている。又、必要に応じて電話でも報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族の代表が出席し、質問や意見、不満等を気軽に言える雰囲気づくりに努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	施設長は職員の離職等が最小限になるように働きやすい環境作りに努めている。又、職員が業務に負担を感じないようゆとりのある人員体制に配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数を考慮しながら、法人内外の研修に積極的に参加させている。又、研修結果については研修報告書が作成され、職員会議で全員に報告している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2か月に1回程度、県南部グループホーム連絡協議会に参加して、勉強会や情報交換を行い同業者との交流を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に事業所に何度か見学に来てもらったり、宿泊体験を行う等、利用者が職員やサービスの場に徐々に馴染めるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを職員は共有しており、昔ながらの慣わし、物を大切にすること、方言等を教えてもらう場面が多く、共に支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中から、利用者の暮らし方の希望や意向の把握に努めている。又、家族を交えての話し合いも行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員会議等でケアのあり方について全職員で意見交換を行い、本人や家族の意向を反映した利用者本位の介護計画となっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは6か月に1回定期的に行い、心身の状態に変化が見られる場合は随時見直しを行っている。	○	安定している利用者についても、月に1回は本人や家族の意向を確認すると共に、介護計画に反映させて見直しを行ってほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者、家族の状況に応じて、通院や外出、墓参り、家族の宿泊等多機能を活かした柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでのかかりつけ医を基本としているが、ほとんどの利用者が協力病院をかかりつけ医としており、隣接していることもあって2週間に1回の往診があり、気軽に安心して相談できる関係が築かれている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期のあり方については、本人家族と話し合いは行っているが、最後の見取りまでは現在行っていない。状態が悪化した場合は母体病院で迅速に対応している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの個性、生きてきた背景、性格等に配慮し、人格や誇りを損ねるような言葉かけや対応がないように細心の注意をしている。又、職員は個人情報保護法の理解に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの一日の流れはあるが、その日の体調や希望にあわせ、自由に自分のペースで楽しく暮らせるように柔軟に支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が同じテーブルを囲んで同じ物を一緒に楽しく食べている。又、後片付けや台拭き、茶碗洗い等職員と一緒にやっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	各居室に浴室があり、くつろいで利用者のペースで楽しく入浴が出来るよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりに食事の時の挨拶、カーテン開け、茶碗拭き、清掃等それぞれ役割分担がきまっており、喜びのある日々を過ごせるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には散歩に出かけたり、敷地内の駐車場でひなたぼっこや歩行訓練を行っている。買物に出かけることもある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	二階建ての構造上の問題や安全面を考慮して玄関に鍵をかけている。	○	建物の構造上の問題があり、かなり難しい面があるが、職員の見守りの方法を徹底する等、鍵をかけずに何とか過ごせる方法はないか検討してほしい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に避難訓練を実施し、マニュアルも備えている。オフィス街で一般住宅が少なく、夜間の災害対応に心配の面があるが、公民館長の配慮で地元消防団の協力体制が出来ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量や水分量は毎日定期的にチェック表で管理しており、利用者の嗜好や希望を取り入れたバランスの良い食事の内容となっている。		
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の生活空間は明るくほどよい広さで、食堂や廊下に花々や四季に応じた壁画が飾られ、家庭的で落ち着きのある安心して生活できる場所となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはテレビ、椅子、布団、ベット、家族の写真等慣れ親しんだ物が持ち込まれ、居心地よく安心して生活できるように工夫されている。		